

1969年度秋季研究発表会報告

日本OR学会の1969年秋季研究発表会は、10月28、29の両日、名古屋の愛知県中小企業センターにおいて開催された。

大学紛争の影響がどのようにでるか心配される向きもあったが、研究発表52件、うち大学関係者のものが31件、参加者数も約350名、まずまずの出足でホッとさせられた。

しかし、大学関係者のうち常連になっている方々の欠席もあり、また、ちょっとしたぞいて帰られた方もあり、あわただしい研究発表会であった。

一方、1972年にはIFORSが日本で開催されるものとばかり思っていたものが、ベニスの会議で日本側から断った直後でもあり、何か緊張したのを感じさせられた。

第 1 日 目

第1日目は朝の出足も悪く、会場受付の整理にも手間取ったので、開会が10分程おくれた。しかし、11時頃からようやく研究発表会のムードが盛り上がり、特に第2会場は定員が120名であったので、補助椅子を搬入するなど期待以上の盛会であったといえよう。

最初の特別講演「第5回IFORS国際会議に出席して」(原野、松田)は11時から開催された。前にもふれたようにIFORSの東京開催を突如として断ったいきさつもあり、この講演には特に関心がよせられた。

原野氏からは東京開催を断った前後の経過と苦心の程を話され、結局1972年はダブリンで開催することになった旨の報告があった。

松田(武)先生からはIFORSの会場スナップを中心に話された。

やはり東京開催を断念せざるを得なかった最大の理由は大学紛争でもなく、学会の体質とあり方に問題があり、国際会議を誘致しやりとげるだけの力がないと判断された事によるものと思われる。

日本の代表として参加された方々はいろいろと御苦労があったと思われ、改めて“御苦労様でした”と申し上げると同時に、国際会議を誘致するにふさわしい実力を如何にして育てるのか、真剣に考えなおす必要があると痛感した。

特別講演の2番手は「企業における人間の問題」(名工大 富田嘉郎)であった。“企業は人なり”と

いわれるが、我々ORを志すものにとっても職場の人間関係を合理主義にたつて見つめることは重要な課題でもあり、話上手の富田先生の講演はそういう意味で感銘を与えた。

18時から恒例の懇親会がニューナゴヤホテルで開催され、約65名が参加した。まず、中部支部の小野勝次支部長から、“OR学会の体質改善が問題になっているが、学会本来の使命は研究活動にあり、研究部会の増設も結構であると思う。大いに実力を養って欲しい”旨の御あいさつがあった。次に小林宏治会長の代理として竹田理事から、“IFORSの日本開催を断念した事は残念である。どうか国際会議を日本でやるような基盤作りをやって欲しい”旨の御あいさつがあって、大会実行委員長関和文氏の音頭で乾杯し開会された。恒例によりスピーチが次々と飛び出し、一方名古屋名物のキシメンが会場に持込まれ、喰気の方も盛んなパーティであった。

第 2 日 目

2日目はトップが大西賞受賞者阿部俊一氏の特別講演「信頼資源の最適配分について」であったためと思われるが、朝の出足は順調であった。

阿部俊一氏の特別講演は研究者らしくキチンと整理され、しかもわかりやすく説明された。とかく建設工事は派手であるのに比べ保全、信頼性の研究は地味であり、研究がおろそかになり勝ちのものであるが、阿部氏の講演を聞いていると国鉄技術の深さを感じさせられた。文句なしにすばらしい講演であった。

特別テーマ「経営計画とコンピュータ」に関する発表は4件で少なかった。情報処理の問題とORを結びつけたテーマでもあり、まとまった報告となると種々難かしい問題も出てくるので少なかったのではないか。この機会に情報処理の機械化とORをより密接に関係づけた研究が一層盛んになって欲しいと思った。またパネル・ディスカッションについては可成り期待をもって出席した会員も多く、後の感想もまちまちであった。例えば、“テーマに対して話の内容は全く外れていた”、“テーマから内容的に外れてはいたが、話としては面白かった”、“一部の人は意見をのべないままに時間切れで終わっている”等である。時間切れで意見発表の出来なかった人々の意

見も加えて編集しなおし、学会誌に発表することになっているので、それに期待することとしたい。

第 3 日 目

第3日目はモンキーセンターと明治村の見学会。

野外のことと心配された天候もからりとした秋晴れで、名古屋市の誇る100メートル道路の中央にそびえるテレビ塔直下に集った参加者は40名、学会本部からは矢部理事ほかに来ていただいた。

定刻9時をかなり遅れた観光バスに幹事役はやきもき。聞けばパンクとのことで、小さな確率ながら当事者にとっては大きな影響。それでも車窓に名古屋城の金鯱を眺めて北上すること30キロ、左手に東大教授成瀬氏の私有である国宝犬山城、別名「白帝城」を見て犬山市に入り、ほぼ予定の10時30分、モンキーセンターに到着した。

150名収容の階段講義室にて京大名誉教授・理学博士・日本モンキーセンター所長の宮地伝三郎先生から動物社会に関するお話を拝聴。アユ、ニワトリ、猿など豊富な実験観測例による動物の社会現象、特にさまざまな情報伝達体系とか、個体の本能からグループの文化への進化とか、順位による社会秩序と安定など大変興味深く、ORを学ぶ我々にとっても示唆に富んだ内容で感銘深いものがあった。

ついで、先生自らご案内いただき、ざっと70種類も集められている猿舎を巡回、大きな「オランウータン」から、ねずみより小さな南米の「マーモセット」、顔やお尻の赤い日本猿やら、青、黄、白と美しい毛色のアフリカの「マンドリル」、あるいは夜

行性として暗室内のほのかな赤色灯の下でうごめく「ポト」など、珍しい猿類を約1時間にわたって熱心に見学した後、園内食堂にて弁当をとった。

食後、同じラインパーク内にある豊沢猿二郎師の猿に関する人形、絵画、岩石、その他数万点の貴重なコレクションの見学などをして、午後1時、再びバスに乗り、20分ほどの明治村へ。

17万坪の広大な村内のこととて、三々五々思い思いに、聖ヨハネ教会、夏目漱石邸、学習院々長官舎、山梨郡役所、長崎オランダ屋敷、旧制四高教室、神戸大井肉店、国鉄大井工場など、古きよき時代、明治の実際の建物を見て廻った。

愉快なものはやはり旧京都市電、札幌郵便局前から品川灯台を経て、名古屋の歩兵6連隊兵舎前まで、わずかに10分足らずで日本一遅くて早い電車。この電車の開業当時の規則や乗客の風俗、乗務員の労働条件などを明治村の名物車掌君のおもしろおかしい案内に一同大笑いだった。

詳しく見て廻ればとても時間が足らず、帰路の予定もあることとて、午後4時に三たびバスに乗って、途中、佐藤弘人さんの『はだか随筆』にも紹介されたチン祭で有名な田県神社に参拝、5時少し過ぎ名古屋駅前の名鉄バス・ターミナル3階到着バースに無事帰着した。

観光と学術、そして文化と三位一体、いささか欲張った企画の見学会だったが如何でしたでしょうか。ご参加いただいた方々の心の片すみにいつまでも思い出が残れば、幹事役の幸せ、これを過ぎるものはありません。
(以上、中部支部より)

研究発表会プログラム

(※印発表者)

発表番号	講 演 題 目		
1,1-1	有効度に関する考察	都立工業短大	大 槻 繁 雄
1,1-2	Threshold Queue with Setup Times	電 電 公 社	橋 田 温
1,1-3	M/G/2 Discrete-Time Queue に関する若干の考察	電 電 公 社	村 尾 洋
1,1-4	F B型待ち行列について(つづき)	広 島 大	福 田 治 郎
1,1-5	Belt Conveyer に関連する待ち行列について	広 島 大	福 田 治 郎
		//	松 井
1,1-6	ランダム到着ワイプルサービスの待ち行列	防 衛 大	佐々木 正文
		//	中 沢 迅 夫※
1,1-7	特別講演 第5回IFORS会議に出席して	東 芝	原 野 秀 永
		東 京 工 大	松 田 武 彦
1,1-8	後発電話需要の成長構造について	電 電 公 社	川 崎 巖
1,1-9	媒体選択の一つの手法	博 報 堂	門 山 允

発表番号	講 演 題 目				
1,1-10	システム商品に対する一つのマーケティング・モデル	京 都 大	古 田 益 穂		
1,1-11	再帰過程の予測について	東 海 大	浅 利 英 吉		
1,1-12	Number of Crossing of Label k to a Total Failure of a Complex System	名 城 大	中 川 覃 夫		
1,1-13	Some Comments on a Two-unit Standby System	名 城 大	中 川 覃 夫※		
1,1-14	On a Two-unit Standby Redundant System with Standby Failure	京 都 大	尾 崎 俊 治		
1,1-15	システム・アベイラビリティの最適配分	防 衛 大	佐々木 正文		
		//	城 戸 蕊 一※		
1,1-16	システムの時間アベイラビリティを最大にする保全要員の最適配分	防 衛 大	上 田 治 郎※		
		//	佐々木 正文		
1,1-17	有限幾何による Computer 内での直交配列表の発生と割付	日 本 電 気	篠 沢 昭 二		
1,1-18	特別講演 企業における人間の問題	名 古 屋 工 大	富 田 嘉 郎		
1,2- 1	Decomposition of Mathematical Programming Problem via Dynamic Programming and its Application to Diagonal Geometric Program	京 都 大	三 根 久		
		//	大 野 勝 久		
1,2- 2	基本行列分散の Markov 決定過程への導入について	近 畿 大	松 富 武 雄		
		//	桑 原 兵 二 郎		
1,2- 3	不確実性の下での計画化と統制の過程の一般的定式化	東 京 大	梅 沢 豊		
1,2- 4	Stopped Decision Processes	九 州 大	古 川 長 太		
1,2- 5	Binary Tree の座標系について	日 本 電 気	篠 沢 昭 二		
1,2- 6	ジョブ・ショップ・スケジューリングの解法(2)	電 気 試 験 所	高 木 正 英		
1,2- 7	土木工事におけるネットワーク・プランニングに関する研究	京 都 大	春 名 攻		
1,2- 8	LNG(液化天然ガス)の年間使用計画, 日間使用計画および貯蔵用タンクの設備投資について	東 京 ガ ス	東 明 佐 久 良		
1,2- 9	回路設計に関するOR的アプローチ	三 菱 電 機	平 沢 茂 一		
1,2-10	変数組合せの最適探索の一考察(第二報)	国 鉄	三 腎 武		
1,2-11	Dynamic Programming & Shortest Route Problem	大 阪 大	坂 口 実		
1,2-12	不完備情報のゲームについて	大 阪 大	坂 口 実		
1,2-13	二次形式輸送問題について	京 都 大	成 久 洋 之		
1,2-14	多種流輸送問題への Incremental assignment 法の適用例	日 本 科 学 技 術 研 修 所	平 本 巖		
		//	長 谷 彰 彰※		
1,2-15	方向性通信網の最適構成	防 衛 大	松 井 甲 子 雄		
2,1- 1	特別講演 信頼資源の最適配分について	国 鉄	阿 部 俊 一		
2,1- 2	Iteration による最小自乗法の解法	大 谷 技 術 短 大	野 田 竜 夫		
2,1- 3	A Model for Overtaking on a Two-lane Highway	京 都 大	長 田 博		
2,1- 4	鉄道における平面交差の支障時間について	中 央 大	山 田 孜		
2,1- 5	航空交通管制シミュレーションのための汎用トラフィック・サンプル発生法	電 子 航 法 研 究 所	仁 科 光 雄※		
		//	大 沼 正 彦		
		//	加 来 信 之		
2,1- 6	交通網の最適制御	東 京 工 大	勅 使 河 原 可 海		
2,1- 7	都市内の交通網計画に関する一考察	名 古 屋 大	河 上 省 吾		

発表番号	講演題目		
2,1-8	貸切バスの配車計画	名古屋鉄道	村手光彦
		//	森 葆
		//	岩 田 怜
	<以下4篇 特別テーマ発表>		
2,1-9	経営計画における情報の流れの規定	日立	江藤 肇
2,1-10	発想法(KJ法)への数量化理論の適用	三菱電機	小池 将貴
2,1-11	経営計画シミュレーション・システム(SLORPS)について	昭和電工	下田 興作
		//	篠原 彰男
		//	伊藤 信義
		//	村井 国浩
		//	藤野 浩二
2,1-12	鉄道における長期経営計画シミュレーション	国 鉄	塚本 広幸
2,1-13	パネル・ディスカッション「経営計画とコンピュータ」		
	話題 1. パネル各社における導入利用の情况		
	2. コンピュータ活用計画——特に経営計画との関連		
	パネル(ABC順)		
	(座長) 旭一シャイン 関 和 文	中日新聞	坂野 守彦
	東邦ガス 加藤 豪	東海銀行	梶田 修
	トヨタ自工 水野 崇治	名古屋鉄道	村手 光彦
	中部電力 本告 光男		
2,2-1	Multi-stage Reject Allowance Problem	神戸商科大	梅林 光寿
2,2-2	A Dynamic Economic Lot Size Model with Backlogging	南山大	沢木 勝茂
		//	飯原 慶雄※
2,2-3	最適在庫過程の解析的数値的研究 IV —適応在庫過程	都立工業短大	小田中 敏男
2,2-4	補給システムに関する研究	防衛庁	茂木 次男
2,2-5	シミュレーションによるパーセント点の推定	中部電力	榎本 久徳
2,2-6	事業所の配置方法について	中部電力	田中 庸平
2,2-7	相補的プログラミング	京都大	茨木 俊彦
2,2-8	I. L. P. に対する一考察(II)	京都大	天達 洋次
		//	成久 洋久
2,2-9	0-1 型整数線型計画に対する Implicit Enumeration の一方法について	電力中央研	伊倉 一孝
2,2-10	電力系統計画における整数計画法の利用	中部電力	榎本 久徳※
		電力中央研	伊倉 一孝